

10月報(2023年) 萌 カトリック福山教会



福山教会活動テーマ：

「喜びをもっていのちをもたらす福音を社会に伝えよう」

〒720-0808 福山市昭和町 7-26

☎【084】923-0614 FAX【084】923-0615

e-mail : fuku-ch@ktd.biglobe.ne.jp

【教区創立百周年閉年行事での川村神父様の講演を聴いて】

田中 靖



教区創立百周年閉年行事に Web で参加しました。川村神父様の講演を聴いて、100年と一言と言っても、そこには何代にもわたって信仰のバトンをつないで来た歴史があるのを感じました。私たちの信仰の先輩方が祈りの中で行動して来られたからこそ、今の私たちの教会があるのだということを実感しました。

私たちの福山教会の歴史は福山教会ホームページに詳しく書かれています。川村神父様の講演で紹介された歴史が同じように福山にもあります。パリミッション会による福山教会（山野）の設立（1886年）に始まり、ムツ神父様、マイエル神父様を始めとする多くの神父様方、伝道師（カテキスタ）の方々（若林宣茂伝道師、久武シカ伝道師、篠原顧六伝道師）、信徒の方々（大木義子さん、大塚さんご夫妻、他多数の方々）の働きによって、福山教会は現在に至っています。今年で山野の教会設立から137年、福山東町の教会設立から128年、現在の昭和町に移転してから76年が経過したことになります。

これからのカトリック教会には多くの課題が待ち受けています。少子化による信徒の減少とそれに伴う教会財政問題、召命減少による司祭減少、典礼や教会活動の変化、緊張する国際関係や地球環境保全、社会の不正義への対応など、いずれも個人の力では如何ともし難い課題と言えます。しかし、私たちの信仰の先輩方は、信仰の力で目の前の課題に取り組み、行動し、乗り越えてこられました。もっと言えば470年に及ぶ日本のカトリックの歴史の中で、更に言えば2千年のキリスト教の歴史を通して見るならば、もっと大きな試練を克服してきたと言えるでしょう。信仰の力はとてつもなく大きいことを歴史が証明しているのではないのでしょうか。

今世界のカトリック教会は世界シノドスの真っ最中にあります。私たちの信仰を再点検し、神様から与えられた試練を共に乗り越えることが求められています。広島教区では教区代表者会議を経て、昨年発表された司教宣言に沿って既に旅を始めています。私たちの信仰の先輩が生きてこられた生涯を思い起こし、誰に任せるではなく私たち一人ひとりが出来る範囲で神の世界の完成のために働けることを祈り、行動していきたいと思えます。私たちには具体的な働きが求められています。

「その後、主はほかに七十二人を任命し、御自分が行くつもりすべての町や村に二人ずつ先に遣わされた。そして彼らに言われた。『収穫は多いが働き手が少ない。だから収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。行きなさい。わたしはあなたがたを遣わす。』」 (ルカ 10.1-3)

【広島教区創立 100 周年に参加して】

夫津木 敬子

鐘の塔 祈りに守られ 100 年祭
宣教師 緑の木陰に 足跡を

広島教区 100 周年祭に参加させて頂き心より感謝致します。
教皇大使レオ・ポソカルデイ大司教様、各国の司教様の御祝いと励ましのお言葉を頂き、御ミサに与ることが出来ました。

亡くなられた司教様神父様方の歩まれた足跡をしっかりと守り続けて行けますように…。



福山教会から有様、賀来様、
神原様の写経が展示されました。

【ミカエル金神父さま霊名の祝い 9/24（日）9：00 ミサ後】おめでとうございます♥



【敬老会開催】

責任チーム 協働

9月10日（日）敬老会が4年振りに開催されました。開催にあたって、新型コロナウイルスの感染状況はどうか、この時期になっても真夏日と言う気候、コロナの流行で教会から足が遠のいている方に、どのようにインフォメーションすれば良いのかと、いろいろ課題がありましたが、地区長さんをはじめみなさんのご協力により、多くの方が参加して下さいました。（44名参加）

“楽しくみんなでパーティー！”となるようプログラムを考えました。

みんなで体操！から始まり、フィリピンの方々によるフィリピンダンス・バンブーダンス（田中さんご夫婦・神父さま飛び入り参加）、日曜学校の子どもたちによる童謡とゲーム、（童心にかえりました）、池田さん・内藤さん・阿部さんによるハーモニカと美声、（心に響きました）ミカエル金神父さま単独コンサート（アンコール有）で大いに盛り上がりました。終始たくさん笑顔が見られ、笑い声が聞けて本当に良かったと思います。



また、四年振りという事もあり何かと不手際がたくさんあった事と思います。みなさんの感想や反省点を次回に繋げ、より参加しやすく楽しい教会となるよう頑張っていきますので、これからもご協力ほど宜しくお願い致します。

【敬老会、神に感謝】

有好 秀子



長い間、骨折で入院していた私は退院後も家庭とリハビリ施設で脚力を取り戻すために機能訓練に頑張っているところです。

最近、久々に教会まで行った時、敬老会が開催される事を教えて頂きました。敬老会当日、私はミサだけでも与りたいと出掛けました。教会に入るとそこには懐かしい出会いが沢山ありました。久々に与るミサ、みことばに耳を傾け乍ら皆様の輪の中で感謝の祈りを捧げることが出来ました。神父様の敬老者の労をねぎらう言葉に対して、私は年長者として少しでも誰かの隣人になれたかと考えさせられました。

ミサ後、誘われるままに一階の会場に出席させて頂きました。そこには全席自由席の心の行き届いた席が用意してありました。この会のため、前々からご準備下さった皆様本当に有難うございました。又、司会をされた方、舞台上で名演出をして楽しませてくださった方々、終始、和やかな雰囲気の中で私共年配者は心から寛ぐ事が出来ました。心から感謝致します。その中でも、ミカエル金神父様のギター演奏には感銘を受けました。又折々に名演奏を聞かせて頂けたらと願っています。

敬老会を開催するに当って企画から当日の準備等、コロナ禍の中での気配りも大変だったことと思います。当日、この会にご一緒出来た皆様にも心から感謝致します。これからも教会家族としての良き歩みが実践出来ますよう心から願って感謝の言葉と致します。

【敬老会に参加して】

小林 絹子



ひとすじの風に秋を感じる朝、9月10日の敬老会に初参加して豊かな時間を過ごさせていただきました。当日の福音は『わたしの名によって集まる所には、わたしもその中にいるのである』。キリストの幹に繋がったブドウの実を連想し、ホールに集まった人々の心が、神様を中心に一つに結ばれていることを実感しました。

この春、市役所から「後期高齢者おめでとう」の通知が届いた時、何を基準に“後期”の線引きをし、何がおめでたいのかと、正直言ってムカッとききました。しかし、長引くコロナ禍と今夏の酷暑での閉じこもり生活は、高齢者の体力と気力を奪い取ってしまいました。丁度自分の無力さと孤独感に打ちひしがれている時期と重なって、アットホームな会場の雰囲気は“一人ぼっちではない”と言う肯定感と安堵感で満たしてくれました。[人との繋がりは参加することから始まる][信徒同士で声をかけ合う]ことの大切さを学びました。参加されておられる信仰の大先輩の方々は明るく輝いていました。敬老会は老いをいたわる会ではなく、長年の経験で得た知恵を敬い、知恵を活かす会だと理解しました。ご準備くださった皆さま、タレントを披露し楽しませてくださった出演者と子供達、韓国語は理解できなくても神様の愛を豊かな声量で伝えてくださったミカエル神父様、心からの感謝を申し上げます。

【敬老会によせて】

中島 知子

敬老会に当事者として初参加しました。

案内をいただいた時、内心“やったあ、とうとう参加できる”と思いました。

といいますのも、私なりにわけがあります。

以前、女性会で敬老会の世話をしていた時、該当者さんにプレゼントをする予定の品物を見て、今は亡きシスターテレジタが“うわあーいいなあ。私もそれが欲しい。来年は私も敬老会だから、私の時もそのプレゼントをちょうだい”と話されたことを思い出します。そして次の年、満面の笑顔



で会の席につき、うれしそうにしておられた姿が忘れられません。あの時のテレジタはとても大きな年長者にみえました。(今でも敬老会といえばシスターテレジタに想いがいきます。)“私も必ず敬老会に参加してプレゼントをもらうのだ”という浅ましくも恋しい思い出が私にあるのです。だから敬老会、待ってました。

会では心尽くしの催しがありました。お菓子、お赤飯、焼き鳥、ダンス…どれも楽しみました。そして、何より心に残ったのは、神父様の歌でした。ギターと美声もさることながら、その韓国語が心地よかったです。

私は韓ドラファンです。神父様の歌われる歌詞の中に意味はわかりませんが聞きおぼえのある言葉がいくつかでてきて、その音の響きが心に沁みました。感謝です。

年をとることが私にはあまり苦になりません。むしろ嬉しい気がします。(甘いかな!)なぜなら私のまわりで、また教会でいきいきと老年期を送っておられる方々がたくさんおられるからです。その方々は不快なことも嫌なことも心の中のみこんで達観しながら日々を送られて

います。また教会においても人生の先輩たちが長さはそれぞれ違って日々、信仰に生きておられるからです。

私もその方々の仲間入りをして、共に神様のもとで“あーだの、こーだの”言いながら年をかさねつつ信仰を生きていきたいと思っています。



歌って
踊って



笑顔に



ないました

【ブラザー阿部のみ言葉のおすそわけ】～使徒パウロの1コリントの教会への手紙15章～

『蒔かれるときは朽ちるものでも、朽ちらないものに復活して、蒔かれる時は卑しいものでも、輝かしいものに復活し、蒔かれる時には弱いものでも、力強い者に復活するのです。』

今日は、福音書かパウロの手紙か迷ったのですが、読んでいて、この2つの聖書に共通点を見つけたので、パウロの手紙から考えて見ました。

卑しいものでも輝かしく、弱いものでも強いものとして変えられる。本当にイエスによって私たちは新しくされることを感じました。

福音書では、種蒔きのたとえが話されます。これは私の解釈ですが、この箇所を読んでいて、気になったところがあります。

主人によって蒔かれた種は、良いところに落ちなければ踏みつけられたり、空の鳥に食べられたり、踏みつけられたり、枯れたり、茨に覆われて。実らないのでしょうか。

良い土地に蒔かれた種だけが、実り、主の祝福をうけるのでしょうか。少し疑問を感じました。私なりに考えてみました。

神はすべての人を救うためにこの世に来られました。すべての人が神の救いに預かるよう、神は永遠の命を約されているのです。道端、石地、枯れた土地、茨の中、すべては私たちに残されている苦しみです。決して良い土地に蒔かれたから良い実を実らせるとは限りません。

もしかしたら、厳しい土地に蒔かれた人も、一生懸命神のみ言葉を聞き、努力し、天の国を得ることが出来ると思えるのです。

どんな困難があっても手を差し伸べて下さる、神がおられると信じるからです。この世の苦しみは決して無駄ではありません。苦しみが恵みに変わる時、神さまの豊かな愛を感じ、「良くがんばったね、」と微笑む神に出会い、天の国に導かれると思うのです。

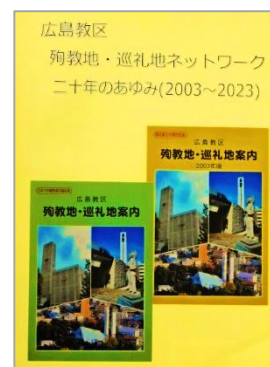
さあ、明日も苦しみを恵みとして受け取り、歩むことが出来ますように。

【広島教区「殉巡ネット二十年のあゆみ」発行のお知らせ】

富田恵子

広島教区に2003年秋に生まれた「殉教地・巡礼地ネットワーク」がこのたび20周年を迎えることとなりました。乙女峠を始めとした殉教地・巡礼地各地の殉教祭の行事などがその場所だけの行事でなく、教区の皆様方の共通認識となり、信仰の先輩の歴史を振り返り、未来を見つめる糧となることが出来るよう、ネットワークとしての活動を始めました。

活動開始以来、「年間行事予定表」の配布やそれぞれの活動報告、そして浦上四番崩れの流配150年に際しては、「流配開始から浦上帰還までの5年間を祈る期間」として流配レターを随時発行するなど、教区内の色々な行事や企画を信徒の皆様へ伝える手段のひとつとして、活動してまいりました。



記念の20周年にあたって、これ迄の20年のあゆみを思い起こし、これからの20年を確実に歩んでいきたいと思い、活動教会・グループそれぞれの20年を振り返った思い出などを載せています。また記念誌には教区内5名の188福者のことも載せています。潜伏キリシタンの250年についての川村神父の講演や大塚司教の講演、そして白浜司教の流配についての説教などの流配レターも再録しています。この貴重なお話しを皆様方にも是非手に取って読んで頂けたらと思います。冊子はA4版98頁。

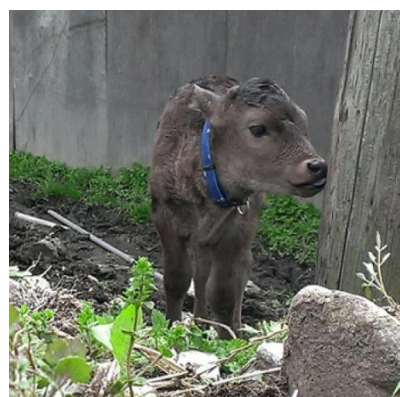
希望者は下記まで お名前・教会名等・希望冊数・連絡先・連絡方法等をご連絡下さい。見本を教会事務所に置いています。一度手に取ってご覧になって下さい。なおお求めの方は発行支援金(献金)として1500円のご負担をお願いします。

連絡先/福山教会(とみた) Tel.084-923-0614 へ。 後ほどご連絡を差し上げます。

【南相馬便り ⑤⑥ 2023年9月】

援助マリア修道会 南相馬修道院 北村 令子

17年前から、南太平洋のクック諸島で生活しておられる方(平和協力隊で)が1年に1度帰国して、カリタス南相馬に5日間ほど滞在して被災地のボランティアをしてくださいます。コロナで2年ほど間が空いたのですが、5月ごろのことですが、また今年も来ていただきました。



クック諸島は亜熱帯の気候で住みやすい所ようです。コロナは、国が閉鎖したので入ってこなかったとのこと。南太平洋のサンゴ礁と火山島からなる「太平洋の真珠」と呼ばれるほど美しい島ラロトンガ島(本島・首都アバルア)。観光資源:シュノーケルやダイビングなどで生活が成り立っているのですが、コロナで往来ができなくなって生活が困窮したとのこと。でも自然が豊かで食べ物に困ることはないようですが……。ニュージーランドと政治的にも通貨も近い国。お米はオーストラリアから入ってくるそうです。握り寿司を食べると日本に帰ったと実感すると。

(大熊のモーモー牧場入り口、放射線量が高く、許可証が必要)

彼は、今回は、モーモーガーデンにボランティアに行かれました。

モーモーガーデンはご存じの方もおられると思います。原発事故で入ることができなくなった大熊で、酪農家が飼っていた牛たちは放射線汚染され、飼い主たちは緊急避難し、えさをやるために帰ってくることもできず、肉牛も乳牛も多くは殺処分されました。数ヶ月か数年かわからないのですが、逃亡して殺処分を免れて生き残った牛たちが、誰もいない元の牛舎に帰っていた時のこと、谷さんという若い女性が、大熊に入る許可を取って入って、その牛舎の前に立った時、牛たちが彼女を見て、滂沱の涙を流したと言われます。その涙を見た彼女は、心を動かされ、牛たちも命ある生き物、何とかして生かしてあげたいと、勤めていた会社を退職して、



放浪牛を集めると 11 頭いたので、「モーモーイレブン」という名称で農場を自費で開かれました。農地の地主さんに、帰還できるようになった時に、すぐ農地として役立つことができるように、荒れ放題になっている農地の草を牛たちに食べてもらって、荒地になるのを防ぐことを、農地の所有者に提案して理解を得られ、今まで続けておられます。多くのボランティアが絶え間なく支援してきたのですが、コロナになって、支援が途絶えがちになり、ずいぶん苦勞されています。「もーもーが一でん」で検索すると詳しく見るができます。

大熊の牛たちは被爆牛なので移動させることができません。最近、北海道から飼い主が高齢化のために牛を飼うことができなくなって、谷さんを頼って 2 頭の牛を預けられたので、谷さんは大熊でなく、富岡に新しい農場を開かれました。富岡は、早くから解除されています。

クック諸島から来られた彼は、その富岡の農場に 5 日間通い、牧場の排水が悪いので、暗渠を埋める作業をほとんど一人でやられたそうです。5 月は草が多くはえる時期なのですが、牧場の排水が悪く草が生えない状態で牛達がお腹を空かしているとのこと。だんだんと支援も薄くなっているようです。この牛たちの命をどうしたら救うことができるでしょうか？動物より人間の方が大切だとか、いろいろな意見が分かれるところですが、谷さんの熱意には、本当に頭の下がる思いです。

話変わって 5 月末ごろのこと、小高工房に一人の男性が来られ、お話をしてみると、浪江に 2 年前に帰還されたとのこと。私が「浪江は、国際教育研究機構や、水素エネルギーの拠点になって、これから発展していくのでしょうか？」と聞いてみると、「住民の気持ちはどこかに置いてけぼりになっていて、発展というのでしょうか？元の町に戻ることはできないと分かっているけれど、住民が戻りたいと思えるような、住民の心に寄り添ったものにならないのだろうか？国際教育研究機構など 5000 人規模の大プロジェクトで住民が戻って来れるのだろうか？役所の人間も、地元の者はわずかで、他県から応援の人が多くて、住民の声は反映されていないと感じる。応援の方には感謝するが、本当に難しいものです！！」と。

私は、単純に浪江の街が国際教育研究機構や水素エネルギー開発の拠点として発展していくことを喜んでいただけ、私も住民の人たちの思いに寄り添っていませんでした。いろんなところがきれいになってきていますが、元の住民の方にとっては、なじみの薄いところ、自分達



(福島民報 2022.12.11)

(福島民報 2022.8.31)

の場という感じがしないようです。

復興と一言で言うけれど、その中身は、その復興の在り方はなかなか難しいものだと思います。小高工房におらせていただくと、いろんな人と出会い、100 人いれば、100 通りの思い、考え、希望など、思い描くことが違って、小高工房の廣畑さんは、どれも否定せず、それぞれが思い描く生き方で生きることを大切に考えておられるのに感心し、学ばせていただいています。本当に人を大切にするということは、自分自身の生き方を問われるものです。聖書の中のイエス

が、出会う一人一人を大切にされる生き方を、私は日々問われているように感じます。イエスは、当時安息日に何か行動することは、石殺しの対象になるにもかかわらず、目の前の一人の病人を命がけで救われます。羊のために命を差し出す牧者です。今日はここまでといたします。

【帰天のお知らせ】

ミカエル 日数谷弘様 (83歳)
 謹んでお知らせします。どうぞ心を合わせてお祈りください

【10月・11月の行事予定】

10月		11月	
1(日)	墓地ミサ(雨天 10/10) 侍者合宿	1(水)	諸聖人
2(月)	守護の天使	2(木)	死者の日ミサ 10:00 18:30
7(土)	備後協働体幹事会 ロザリオの聖母	4(土)	備後協働体研修会 講師：小西神父様
8(日)	広島地区宣教司牧評議会	5(日)	
18(水)	聖ルカ福音記者	12(日)	七五三
20(金)	広島教区召命合同祈りの集い	23(木)	教区ひろばの日
22(日)	墓地ミサ 14時 (雨天 10/29) 世界宣教の日	26日	教会大掃除

【編集後記】

今回はたくさんの記事が集まりました。みなさんの心を書かれた内容によって知りあえることはうれしいですね。有難うございました。

今月はロザリオの月です。ミサの前にロザリオの祈りがあります。ロザリオをくりながら、亡くなった方々を“天国へ導きください”と祈ることも大切なのですね。ロザリオの祈りをとおしてマリア様に対する信頼をより深められたらと思う日々です。(T・N)